

## 学まちコラボ事業の取組

学まちコラボ事業では、公開のプレゼンテーション審査や事業報告会を開催し、応募した学生の学びにつなげています。

### 公開プレゼンテーション審査



### 学まちコラボ事業スケジュール

- 4月～5月 募集  
6月 審査(書類・公開プレゼンテーション)  
7月 認定式  
↓  
3月 事業実施  
事業報告会

応募団体の中から書類審査を通過した団体が、選考委員や一般来場者の前で、それぞれの取組をプレゼンテーションします。

衣装を着たり、踊りを披露したりと工夫を凝らしたプレゼンテーションで取組をアピール。選考委員から厳しい質問が飛ぶこともありますが、どの団体もしっかりと準備を重ねてきた成果を充分に発揮します。



選考委員との質疑応答は真剣勝負！



伝統衣装を着て踊りを披露



思い思いの衣装をまとい取組をアピール

### 認定式



採択された事業について、門川大作京都市長や学まちコラボ事業選考委員の同席のもと、認定式を開催。市長から認定証を交付し、各団体が取組に向けた決意を表明。地域活性化に向け、力強くスタートを切ります。

申込等に関するお問い合わせ先

公益財團 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto

学まちコラボ事業 担当  
(※日・月を除く 9:00～17:00)

T E L 075-353-9130 F A X 075-353-9101  
E-mail gaku-machi@consortium.or.jp  
U R L http://www.consortium.or.jp  
〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

本事業の企画等への  
お問い合わせ先

京都市 総合企画局 市民協働政策推進室  
(大学政策担当)

T E L 075-222-3103  
F A X 075-213-0443

発行：京都市総合企画局市民協働政策推進室  
京都市印刷物 第253194号  
発行月：平成26年3月



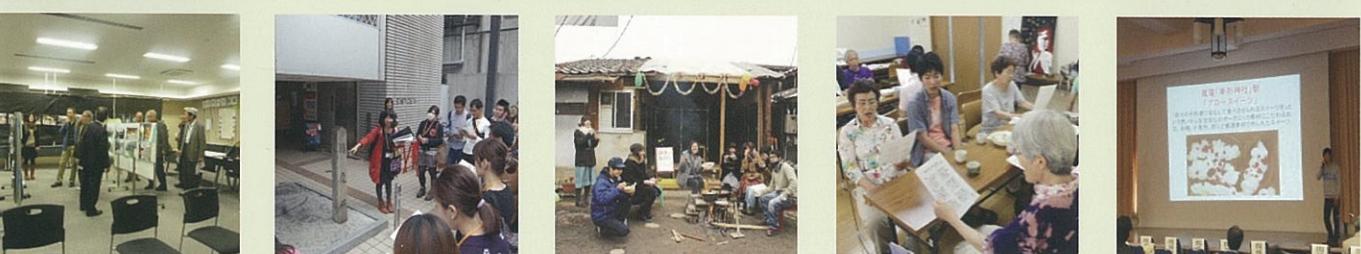
大学・学生と地域がコラボして京都のまちを活性化！！

# 学まちコラボ

## 平成25年度活動報告



### 協 働



公益  
財團  
大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto



京都市

## 学まちコラボとは

京都市・(公財)大学コンソーシアム京都では、平成16年度から、「学まちコラボ事業(大学地域連携創造・支援事業)」を実施しています。この事業は、大学と地域が一体となり、『コラボ』して実施するまちづくりや地域の活性化に資する企画・事業を広く募集し、認定した事業に支援金を交付し取組を応援する事業です。

大学にとっては実践的な教育・研究機会の確保による人材育成などを、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化を図るとともに、大学と地域との連携をより一層促進することを目指しています。

平成25年度は、33件の応募の中から書類審査を通過した22件が公開プレゼンテーション審査に進み、審査の結果、17件を採択しました。平成25年度に採択された取組を紹介します。

注1) 成果については、平成26年1月末時点での内容を記載。

注2) ( )内の大学名は、採択団体や採択団体と連携している団体の学生が所属している大学名を示す。

注3) 各区は、採択団体が事業を開催している行政区を示す。

注4) 奨励事業とは、採択審査において次点となつたが、学生と地域の連携深化を期待できる事業として奨励するもの。

注5) 学まちコラボ事業一般については、大学コンソーシアム京都HPを御覧ください。

[http://www.consortium.or.jp/category\\_list.php?frmCd=52-1-0-0-0](http://www.consortium.or.jp/category_list.php?frmCd=52-1-0-0-0)



### 平成25年度 採択プロジェクト紹介 事業概要と成果

#### 1 京北町宇津ふれあい学びあい

京都精華大学京北宇津宝さがし会  
(京都精華大学)／右京区



事業  
概要

地域の地図や資料から、地域の情報を収集したうえで、地域のことをよく知る方に、鮎、北山杉、宇津の宝について講義をしていただき、その内容をまとめた。地域の夏祭りに向けて子どももフラメンコ教室を開き、子ども達と一緒に夏祭りの舞台に出演した。その他、伝統料理である鮎飯の講習会、朝市の見学、地域清掃活動への参加などを通じて、地域との交流を行った。地域の情報を利用して地域紹介地図を作成する予定である。

成果

- 地域の宝について、学生という外部の目と、地域のことによく知る人の目と、違う視点からの新たな発見があった。その成果は現在編集中だが、わかりやすい形にまとめて共有する予定(地図と冊子)
- 宇津地域の人から、「学生さんはこんなこともしてはどうか」という提案をいくつもらつた。どのようにしたら実現可能か、両者で今後とも考えていく。
- 宇津地域に行きたいという学生が増えた。
- 子どもフラメンコ教室にまた参加したいという地域のお子さんの声がある。

#### 2 ことおこしをデザインする2

京都造形芸術大学 近代産業遺産アート再生プロジェクト  
「まか通VII」(京都造形芸術大学)／東山区



事業  
概要

何事も継続があって成果が出る。地域振興もそのひとつで、長い目で地域と向き合い、ものごとをおこし、それが一度きりで終わってしまわないよう継承していくスタイルが私たちの地域振興であると志している。今年度はその中でも、地域住民間の関係のより良い変化を期待し、「鍾馗祭り」を催した。これを継続的に行っていくことで、地域にとっての「新たな祭り」も開拓できると考える。

成果

- 「鍾馗神社」をつくり、「鍾馗祭り」を実施した。今後、新しい地域行事として地域住民と共に「鍾馗祭り」を作り催し続けることで、地域住民間の新しいコミュニティーを形成するための土台となった。
- まか通の拠点である職人長屋・六原ハウス(東山区薬師町)を一部改装することにより、イベントスペースや、地域住民間の交流の場(地域住民を交えた映画鑑賞会、お食事会などを来年度より実際に行う)としても活用できるものにし、まか通だけでなく、地域にとっての拠点としても位置づけられる土台となった。

#### 3 田の字地区活性化プロジェクト

京都造形芸術大学 田の字地区活性化プロジェクト  
(京都造形芸術大学)／中京区



事業  
概要

町の生い立ちの伝承者である町名に注目し、その由来、生活の様相などを調査。元々は職住一体の町であるこの地域は、深くこれらと関わっていると考え、またこれまで調査した地蔵、鍾馗、仁丹標識、石碑、町家も含め、総合的に生活文化を捉え考察。その成果報告として数回のイベント・ワークショップを開催し、新たな地域の魅力を地元住民に還元する。

成果

- 学生が考えたワークショップ(平成25年度全5回実施予定、平成26年1月現在3回実施)を通して地元住民と関わり、土地の愛着意識を高める。
- フィールドワーク調査の結果を元にフリーぺーパー「京都まんなか歩き」のコラムを執筆し、観光客と地元住民に新しい京都の魅力を還元する。
- 町にある個性豊かな店舗へインタビューし、フリーぺーパー「京都まんなか歩き」に紹介することで、住民や観光客をつなぐツールを提供する。
- 伝統産業の日にあわせて市役所前広場を使ったワークショップを開催(平成26年度も実施予定)し、より大きな世代を超えたかかわりの場を提供しイベントおよび地域の活性化を図る。

#### 5 とびだす、キャンパス！@深草町家

特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ  
(龍谷大学)／伏見区



#### 4 目指せ紅白 紫野大作戦！！

むらさきっず(佛教大学)／北区



事業  
概要

京都市北区紫野学区の一人暮らしの高齢者組織「パープルフレンズ」とともに「防災かぞえ歌」や「防災グッズ」を制作し、さまざまな地域で防災啓発活動を展開することで、パープルフレンズを含めた地域住民の防災意識の向上を目指す。また、パープルフレンズの目標である紅白歌合戦出場を実現するため、この活動をさまざまなメディアに取り上げてもらうよう働きかける。

成果

- 防災かぞえ歌を制作し、パープルフレンズの防災意識が向上した。
- 地域のお祭りや他地域において防災かぞえ歌を披露し、防災啓発の担い手となつた。
- 他地域での活動を通してパープルフレンズの積極性が増し、自信を持って活動に参加するようになった。
- 本事業を通して、パープルフレンズの認知度が高まり、出演依頼が増えるようになった。
- パープルフレンズを応援しようとする地域の機運が一段と高まってきた。

事業  
概要

龍谷大学深草町家キャンパスを地域住民と龍谷大学の学生・教員らが交流できる場とし、双方の特色を活かして地域の文化や伝統の継承や地域活性化に向けた事業を実施する。町家キャンパスをアートに関連したイベント会場とする「まちやみゅ～じあむプロジェクト」、衣食住についての講演会と意見交換会の「町家 de 交龍」を学生たちが企画・立案し、広報・運営までを担い、地域とのコミュニケーション強化も行う。

成果

- 地域住民が参加しやすいように楽しく、興味ある内容のイベントや講演会を開催することにより、地域住民が町家キャンパスへ気軽に訪問する機会が増え、身近な存在へと変わりつつある。学生スタッフたちも事業実施をするうえで、企画力やコミュニケーション能力などのスキルの向上と参加者も含めて歴史や文化についても理解を深めることができた。

## 6 区民と女子学生がつくる西京極駅前ひろば

京都光華女子大学環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」(京都光華女子大学)／右京区



事業  
概要

鳥糞や落ち葉被害に苦しむ地域住民の希望により、西京極駅前緑地帯内にあるケヤキ9本が伐採され、新たにコミュニティ広場を設置することになった。この広場のデザインや運営方法を地域住民といっしょに検討すると同時に、本事業では、特に、環境配慮および自然への感謝の観点から、伐採されたケヤキの有効利用を考える。ケヤキから椅子や看板などを作成することで、木材製品を通じた大学と地域の楽しい交流を目的とする。

成果

- 地域住民、右京区役所、交通局、警察、土木事務所、地域企業、そしてグリーンキーパーが、これまでワークショップを重ねて、ケヤキの有効利用や新しいコミュニティ広場のありたい姿について検討を重ねてきた。この検討プロセスは、大学と地域の連携をより強固にすると同時に、完成後の広場管理を通じて、継続的な連携体制が可能になる。地域で力を合わせた広場づくり、これは、今後の公共事業の模範的事例ともなるであろう。

## 7 三条にぎわいの灯プロジェクト

京都工芸繊維大学佐々木まちづくり研究室  
(京都工芸繊維大学)／中京区



事業  
概要

三条通における堀川通から新町通間の界隈は昔の町並みを残し新規店舗の開店など、新旧交わる京都らしい魅力を持っている。一方、通りは抜け道となり、知名度が低い。マンション建設で人口増加が見られるが、外部空間に生活の質を高める仕掛けがなく、地域活性の仕掛けづくりの必要性を感じた。界隈で大学と地域が連携した活動を継続し、地域で実施されている活動や造形作家と連携して事業を発展させ、「通りの名物」を創出する。

成果

- 看板としての機能を持った行灯を並べ、通りのお店を互いに紹介しあうことで通りを歩く楽しみが生まれるとともに、お店同士のコミュニケーションを促進し、新たな繋がりを形成することが出来た。
- 作成した電車を通りで走らせ、車窓からの風景の映像を流すことでの地域で行われているイベントを繋ぎ合わせ、界隈を一体的に感じるきっかけとなつた。
- 当初は7月の還幸祭だけの予定であったが、多くの方から11月の「まちなかを歩く日」でも行灯を並べて欲しいとの意見をいただき、再び並べることが出来た。
- 今後、地域でのイベント開催に合わせて今回作成した行灯を並べることで、この行灯が地域でのイベント開催の象徴になるのではないかと期待されている。

## 8 Let's 小野 GO (小野郷へいこう)

Let's 小野 GO (小野郷へいこう) (佛教大学)／北区



事業  
概要

平成19年度から小野郷地域の住民が中心となり、京都市北区役所、京都市北区社会福祉協議会そして佛教大学との協働の実践として、小野郷地域のまちづくり活動を展開している。平成25年度は、小野郷地域の魅力を再発見するための「ガイドブック」を作成、地域内外の多様な人々が参画できる「音楽祭」の企画・開催、先達者の技に学ぶ「しめ縄づくり講習会」の実施など、小野郷地域の活性化と高齢者支援を進める。

成果

- <ガイドブック>  
ガイドブックを作成することにより、小野郷地域の魅力を内外に発信するだけでなく、地域住民に対するインタビューを通して、住民自身が小野郷の魅力を再発見(再確認)することができ、地域に愛着と誇りを持つことができた。
- <音楽祭>  
岩戸落葉神社ライアップ音楽祭は、「音楽」を通じて多くの方が小野郷地域に集い、まちの魅力を知ってもらう機会として効果的であった(当日は地域内外を含め80名以上の参加があった)。  
—地域との調整も含めて—  
学生自身が主体的に企画・実施を行い、PDCAサイクルの重要性や計画的な進行の意味について学ぶことができた。
- <しめ縄づくり講習会>  
しめ縄づくり講習会を通して、高齢者の持っている技術や役割を發揮できる場を創出することができた。  
学生は、その地域で受け継がれている文化に触れることができ、小野郷地域の歴史と魅力を再認識できる機会となつた。

## 9 もっと化けよう！三条通り

精華おばけ会(京都精華大学)／中京区



事業  
概要

精華おばけ会は今年度、中京区の京都三条会商店街と左京区貴船の、2か所で活動した。

三条では9月28日に「きつねの嫁入り＆肝試し会」(光華女子大三条光華ガールズと共に)を、11月15日には「七福神来訪＆笑いヨガ」を開催、2月1～4日には「おばけギャラリー」「化け方コンテスト」「おばけパレード」等を行った。貴船では2月2日に叡電出町柳駅発「おばけ電車」と「節分おばけ詣」を行った。

成果

- 「きつねの嫁入り＆肝試し会」では商店街各所にカメラマンが待ち受けており、胆試し会場には地域の幼児・小学生200人以上が集まった。いつもの商店街を不思議な空間に変えた数時間だった。「七福神来訪＆笑いヨガ」では七福神に扮した学生が各商店を訪れ、買い物客からも笑顔で迎えられて商店街活性化に貢献した。
- 2月1～4日の節分おばけイベントには連日多くの見学者があった。特に「おばけパレード」には京都の約10の大学からの参加者を含む、約250名の学生がとりどりの扮装で参加、2時間にわたって見てきたあるパレードを繰り広げた。沿道にはカメラマンや観覧者が多く、イベントとして定着した印象を受けた。なお当日正午頃にはゼスト御池でも「おばけパレードプレイベント」を行って、「節分おばけ」の周知をはかった。
- 2月2日の「叡電おばけ電車」には、出町柳駅13時発の便に約200人が乗車、車内では学生が貴船に伝承される「豆まき由来の物語」等を紹介した。「節分おばけ詣」には東京・岡山・富山や関西一円からの来訪者を含む約250人が「おばけ」の扮装やミニパレード、みんなで踊り笑う「うらじや音頭」や「ふく笑い」の行事を楽しんだ。地域からは貴船の新たな魅力を発信する行事として、今後の継続が期待されている。

事業  
概要

地域の複数の商店とコラボして『嵐電パトトレイン』のオリジナル商品を開発し、「買って楽しむ」ことで子どもからお年寄りまでが「まちづくり」に参加・貢献できるシステム構築に取り組み、商業活動が地域の活性化に直結する実験的事業を実施する。さらに地域課題の提起として右京区民の笑顔と右京区に対しての要望を写真に収め、嵐パトマンのモザイクアートを作成、発信し街づくりを一人一人が考えるよう刺激する。

成果

- ソーシャルビジネスモデルを確立し、地域課題を自分たち右京区民の力で解決できる基盤づくりに貢献できた。
- 嵐パトコラボ商品を中心としたこの活動を積極的に発信することで、京福電鉄キャラクターである嵐パトマンの認知度増加と新たな街づくりへの住民や行政関係者への意識づくりを提起できた。
- 右京地域住民の笑顔と声(地域に対する思いや要望)を写真に収めることで街づくりを一人一人が考えるきっかけとなつた。
- 集めた写真で京福電鉄キャラクターの嵐パトマンのモザイクアートを作成しそれを地域に展示することで、住民の声を発信し課題意識を刺激している。(現在進行中)

## 10 サッサ踊ろう 下鴨音頭

京都精華大学地域文化プロジェクト  
(京都精華大学)／左京区



事業  
概要

「下鴨音頭」は下鴨小学校創立80周年時に作られたご当地ソングであるが近年は忘れ去られて、盆踊りとして踊られる機会も減っていた。小学校創立140周年にあたる本年(平成25年)、京都精華大学地域文化プロジェクトでは「下鴨音頭」の地域での復活再生をめざして、次の5点の活動を行つた。  
①音源のリニューアル  
②伝統衣装の新調  
③歌詞入り団扇の作成  
④地蔵盆会場への出前出演  
⑤下鴨神社盆踊り大会への出演

成果

- 「下鴨音頭」の音源はこれまで60年前のSP版を使用してきたが、古い吹き込みのために音質に問題があった。そこで今回、あらたに歌手やバンドを依頼してCD化した(300枚)。これによって地域の愛唱歌としての浸透が可能となり、盆踊りにも利用しやすくなつた。
- 「下鴨音頭」を担ってきた下鴨御所音頭・紅葉節普及会の伝統衣装を新調(5着)し、歌詞入り団扇を作成(500本)することで、出前先の地蔵盆会場(6町内)や下鴨神社盆踊り大会が盛り上がり、地域の歌として浸透させることができた。今年度は雨天にも拘らず多くの人々が踊りの輪に入つて楽しく踊つた。今回の活動は今後の伝承フレームの一環としても役立つものであろう。

## 11 嵐パトでつなぐ“まち”想い

右京改新会議(京都外国语大学)／右京区



## 12 深草 SOSUI (疏水) 物語 2013

みらいの環境を支える龍谷プロジェクト(龍谷大学)/伏見区

### 事業概要

本事業は、伏見区深草地域を中心としたまちの魅力の再発見と発信を行うことを目的とする。まず、深草を流れる琵琶湖疏水(鴨川運河)と、疏水と並行する本町通りの関係を歴史的・文化的側面から調査することで、まちの特徴を明らかにする(ストリートヒストリー)。そして、それらの魅力を将来につなぐための地域憲章と、全ての人に視覚的にわかりやすく伝えるための鳥瞰図を作成する。

### 成果

- 写真展—住民の方に「疏水を改めて見てみよう」という意見を多くお持ちいただけ、地域を見直すきっかけとなることができた。(平成25年8月9・10日、11月2・4日、23日)
- ワークショップ—その場では、これまでつながりのなかった住民の方同士が出会い、また、意見交換を行えたことで新たなまちづくりの動きとなった。
- 「ふかくさまるごとライトアップ2014春」—水辺空間の具体的な活用として地元の地域団体との参画(予定)。(平成26年3月28日-4月9日予定)

## 13 嵐山と桂川を“いかだ”でつなぐ プロジェクト2013

京都大学環境デザイン学研究室「嵐山景観きりこみ隊」  
(京都大学)/右京区

### 事業概要

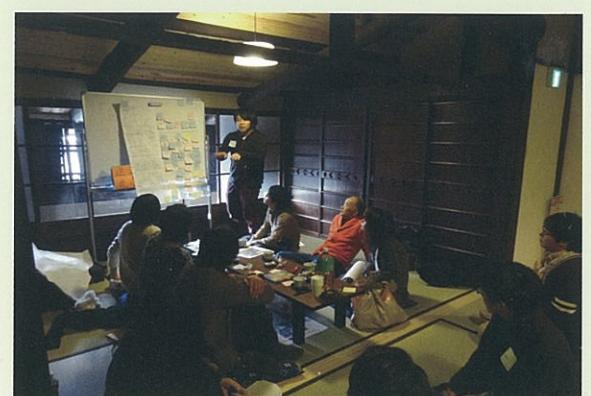


### 成果

古くから嵐山地域の観光基盤であった四季折々の美しい景観は、里山的利用の減退等を理由に、近年大きく変化しつつある。また、かつての筏流し等の文化的な営みが現在ではもう見られない。そこで、嵐山景観が変遷を辿る中、地域の方々と共に山川の現地調査を通して現状を把握し、昔は当たり前のように見られた筏流し等の文化的な営みの復元を通して「山・川・人のつながり」を今一度見直し、嵐山景観の将来像について考えることとした。

### 成果

- これまで美しい景観を維持してきた山や川の危機的な現状を地域の方々に知らうことが出来た。
- 伝統的営みを通して、地域の方々へ「山・川・人のつながり」を今一度見直してもらう機会を与えることが出来た。



## 14 京都三条会商店街寺子屋事業

京都光華女子大学 光華三条ガールズ  
(京都光華女子大学)/中京区



### 事業概要

地域コミュニティの活性化として、子供たちと保護者の皆様が地域のイベントをより楽しめることを目的に活動した。6月は七夕夜市に向けて、ヘアメイクのための簡単なヘア飾りやブレスレットなどを子供たちと作り、7月には子供たちがヘアメイクと浴衣を着て、普段できないようなおしゃれをして商店街に出かけた。8月から12月にかけて150cm×250cmのビックアート(旗)を作り、商店街の天井に飾り付けを行った。

### 成果

- 子供達と一緒にブレスレットなどの小物作り体験を実施した。初めて訪れる子供も夢中になって作り、小物の出来具合を話したり分からぬ部分は積極的に聞き合ったりするなど、体験を通じて、自然に周囲と仲良くできる環境を作りあげることができた。
- また、女の子達にヘアアレンジを施し、普段とは違う自分になることで商店街の人たちが子供達に話しかけるきっかけ作りを提供することができた。
- 親子で参加してもらうことで、保護者同士の新たな交流の場を設けることができた。
- ビックアートを通じ一緒に一つの絵をかくことで、初めて来た子供たちも今まで来ていた子供たちも一体となって活動し子供同士の多様な関係性を築ける場所を提供できた。
- ビックアートでは実際に子供たちの作品を飾ることで商店街全体の雰囲気を華やかにし、地域の人達の目に止まりやすくなった。

## 15 なんやかんや!大原野魅力発信プロジェクト

なんやかんや大原野(京都市立芸術大学)/西京区



### 事業概要

#### <1 ホームページの制作>

農産物の軒売りマップ、生産者紹介、特産紹介など、農業を中心に大原野地域の魅力を紹介するホームページを京都芸大と協力して制作した。

#### <2 福島応援ひまわり大作戦!>

被災地・福島を支援するため、休耕田を活用して、種蒔きのほか、桂高校生が育成した苗を市民ボランティアの協力を得て植え付け、京都芸大と協力して開花イベントの開催及びひまわりアートの制作を行った。

### 成果

- 「福島応援ひまわり大作戦!」は、地域と大学、高校、小学校などが連携して取り組むことにより、多様な団体と多世代が交流して事業を進めることができた。特に、植え付けに広く市民ボランティアを募り、開花期間中はイベントを含め長期に地域が賑わった結果、内外の住民を巻き込んだ取組とすることができた。
- 「福島応援ひまわり大作戦!」が長期にわたって内外から注目を集め、賑わったことから、取組が地域に認知され、協力を得やすくなるとともに、「ひまわり畠」という自分たちで作りだした観光資源が好評であったことにより、活動に自信をもてるようになった。
- ホームページの制作は、ウェブデザインという枠組の中で、学生と団体が一緒に活動して活発に議論をしながら制作を進め、思い切って農業を中心とした構成にしたことにより、団体の個性と地域の魅力を活かしたホームページとすることができた。

## 奨励事業

## 17 嵐山夢プロジェクト2013 ～嵐山物語をお土産に～

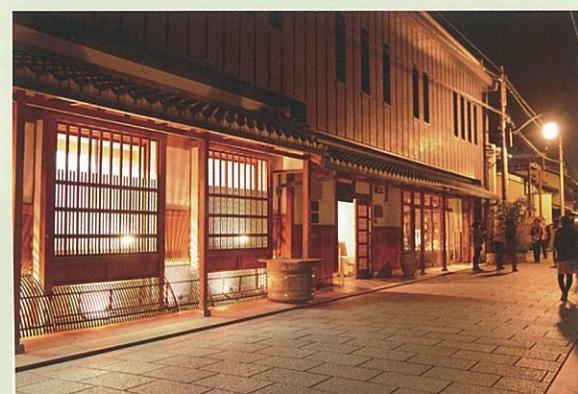
嵐山夢プロジェクト2013～嵐山物語をお土産に～  
(京都嵯峨芸術大学)/右京区



## 16 都ライト'13

都ライト実行委員会

(同志社大学・京都造形芸術大学)/上京区



### 事業概要

11月8・9・10日の夜間に上京区で開催された『都ライト'13』の準備・運営。町住人や来場者による町家の魅力を再発見してもらうことを目的に事業を行った。約50軒の町家をライトアップし、灯籠や提灯を設置した。あわせて地域住民による着物・茶道・華道・絵画などの展示や体験イベント、および市内学生による演奏や飲食店の出店などを行った。来場者は3夜で約2000人であった。

### 成果

- 【協力して下さった地域の方々に対して】
- 実行委員と良好な関係のもとで協働することで、若い世代との一体感を感じてもらえた。
  - 多くの来場者が集まることで、自身の住む町家や町並みにより誇りをもってもらえた。

### 【来場者の方々に対して】

- 町家や、町家が残る町並みの美しさを再発見してもらえた。
- 地域で育まれてきた伝統文化の魅力を感じてもらえた。

### 事業概要

日本有数の観光地嵐山ゆかりの素材を活用し、これまでになかった嵐山オリジナルブランドを地域の方々と共に共同開発し、地域共通財産となる「嵐山の地財」を後世へ残す。嵐山の隠れた名物素材を継承すべく、嵐山発祥の食材である、小倉あんと、亀の子煎餅を用いて、由来とい伝えを外界へ発信し、地域や観光客に嵐山のよさをより多く伝える。

### 成果

- 嵐山発祥のゆかりの素材を物語と共に地域に再認識してもらえた。
- 嵐山の和菓子店と協力し、試作品を作り、嵐山発祥の素材である煎餅と小倉あん使用をコンセプトとしたお土産として、現在一部試験的販売を行っている。名称は嵐山商店街で検討中。
- 嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会主催「ありがとう元気です！嵐山」の嵐響夜舟にて試食販売イベントを行い、多くの方に試食、購入してもらい、アンケートに答えてもらった。